デーリー東北

デーリー東北新聞社
〒031-8601
八戸市城下一丁目3-12
電話0178(44)5111
振替口座02360-6-4212
©デーリー東北新聞社2014

再処理工場に火砕流痕

「十和田」噴火、2回到達か

六ケ所村の使用済み核燃料再処理工場＝2013年11月

日本原燃の使用済み核燃料再処理工場（六ケ所村）の敷地に、火山噴火に伴う火砕流が3万2千年前と1万5千年前の2回到達した可能性が高いことが19日、原燃が原子力規制委員会に提出した資料で分かった。いずれも南西約60キロの活火山「十和田」（青森、秋田両県）の噴火によるもので、原燃の調査で痕跡が確認された。【3ページに関連記事】

規制委審査の判断注目

規制委の「火山影響評価ガイド」は、火砕流が及ぶ可能性が十分小さいと評価できない場合は原発の建設を禁じており、規制委が進める再処理工場の審査で、これらの痕跡をどう判断するか注目される。

十和田は約20万年前に活動を開始、大規模噴火による陥没（カルデラ）に水がたまって十和田湖ができた。原燃は「敷地は火砕流の到達した末端部分。カルデラができるような大規模噴火が発生するとしても数万年先だ」と主張。再処理工場の運用期間中に再び火砕流が到達する可能性は十分に小さいが、火山活動を監視するとしている。

敷地に到達したとみられるのは3万2千年前の「大不動火砕流」と、1万5千年前の「八戸火砕流」。八戸火砕流は敷地内で軽石の混じった斑点状の火砕流堆積物を確認。厚さは約20センチだった。敷地南の鷹架沼付近では大不動火砕流の堆積物が見つかった。敷地内でも、大不動火砕流によると考えられる小さな軽石が確認された。

敷地北側でも二つの火砕流に由来するとみられる軽石が見つかっており、火砕流が敷地北側まで広がった可能性がある。

群馬大の早川由紀夫教授（火山学）は「火砕流の挙動と十和田湖からの距離を考えると、到達していても不思議はない」と指摘。ただ、原燃の資料は不十分で「火砕流の直前に高く上がった噴煙から降り積もった軽石を見ている疑いがある」として、規制委による再調査が必要ではないかとしている。

原発と火山をめぐっては、九州電力川内原発（鹿児島県）や北海道電力泊原発でも過去に火砕流が到達した可能性が高いが、事業者は敷地内で火砕流堆積物が見つかっていないことを根拠に「到達していない」と主張している。

医療法人
脳ドックセンターおっとも
脳神経外科・放射線科・内科・リハビリ科
おっとも脳神経クリニック
あい愛デイケアおっとも
柏崎四丁目（NTTそば）
☎41-1115

ノロウイルスで77人食中毒 21

きょうの紙面

観客大笑い「ほら吹き大会」
「山神ゆぶし」ことしは豊作
センター試験全日程を終了
COPD認知度向上が課題

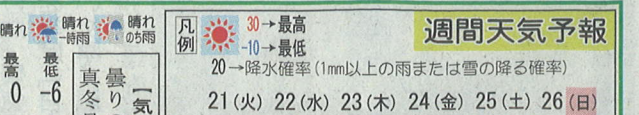
21 20 16 14

第63回 スケートインターハイ 八戸・三沢・南部

念入り調整 きょう開幕

第63回全国高校スケート・アイスホッケー選手権は20日、八戸市公会堂で行われる開会式で開幕する。市長根リンクでは19日、スピードスケートの公式練習が行われ、選手らが氷の感触を確かめながら本番に向けて準備を整えた。【12、20ページに関連記事】

八戸に初めて来たという北海道・池田高の青木雅弥君（さ）は「思ったより暖かい。リンクの氷は柔らかくて滑りやすかった」と話した。

きょうの天気

週間天気予報